

湖西市新水道ビジョン 施策の進捗管理目標と指標値							←施策推進期間(前期)→				2023年度末までの達成状況に対する分析と考察	
基本施策		施策 (★は重要施策)	具体的施策	進捗管理目標と指標値	実績H30	目標R6	目標R11	R3	R4	R5		R6
					2018	2024	2029	2021	2022	2023		2024
安全	水源水質の維持	★塩水化対策の強化	① 揚水量管理と定期調査の実施	●井戸水位	-	適正水位を維持	適正水位を維持	適正水位を維持	適正水位を維持	適正水位を維持	適正水位を維持	遠方監視システムにより井戸の水位と稼働状況を常時監視し、異常発生時には速やかに対応する等、井戸の運転状況を毎日管理している。
				●休止井戸の定期調査実施箇所数	0箇所	3箇所	6箇所	0箇所	0箇所	0箇所	取水量の低下した既設井戸について、揚水ポンプの交換を行い水量の確保に努めている。	
	浄水水質の管理	残留塩素濃度管理の強化	② 適正塩素注入率の管理	●検査位置の適正化	-	実施完了	-	-	北部管末監視 地点を追加	-	配水区域の管末における水質の監視地点について随時見直しを行い、監視地点の追加を行っている。	
				●塩素注入率	0.4mg/L程度	0.4mg/L以下を維持	0.4mg/L以下を維持	0.4mg/L以下を維持	0.4mg/L以下を維持	0.45mg/L以下を維持	遠方監視システムにより配水の出発点となる配水場、並びに末端の監視地点の塩素濃度を常時監視し、異常が発生した場合は速やかに濃度調整を行うことで市内配水の塩素濃度を管理している。原水・県受水の水質や配水の消費量を把握しつつ、市内配水が最適な塩素濃度となるよう塩素注入率を「0.4mg/L以下」から「0.5mg/L以下」に変更した。	
強靱	計画的な安定 水源の確保	★揚水可能量の調査	① 水源井更新計画の策定	●水源井の更新箇所	0箇所	6箇所	9箇所（更新完了）	0箇所	0箇所	0箇所	0箇所	2021年度に新規の井戸4箇所の整備計画を策定、順次工事施工予定である。
		★水源井更新計画		●自己水割合	26.7%	36.4%	39.1%	20.4%	19.1%	20.0%	新規井戸の稼働を以て自己水割合の改善を図る。	
	施設・管路の 耐震化	管路耐震化計画の見直し	② 管路耐震化計画の見直し	●管路の耐震化率（耐震適合管を含む）	34.5%	39.5%	42.8%	35.6%	37.8%	38.2%	長期的な水道事業の収益確保を前提に、年率1%の耐震化率向上を目標に水道工事を行っている。各年度で数値の増減はあるが、引き続き現状の方針で更新を行う予定である。	
				●重要給水施設管路の耐震化率（耐震適合管を含む）	45.9%	51.5%	62.0%	41.9%	41.9%	41.2%	2024年度より「上下水道一体化による重要施設管路の耐震化」の方針が国から示され、該当施設の考え方が一部変更された。この方針を踏まえ、耐震化管路整備の計画の修正が必要となる。	
災害対応の強化	各種災害時を想定した防災計画の見直し	③ 各種防災計画の見直し	●防災計画の見直し	-	見直し完了	実施	見直し中	見直し中	見直し中	見直し中	大規模地震に伴う給水応援の経験に基づき、避難所への給水作業を想定した新たな備蓄品の選定当、災害時における対応方法を検討中である。	
			④ BCPの策定	●BCPの策定	-	策定完了	実施	策定中	策定中	策定中	策定中	近年の国内での災害時における対応の事例を参考に計画を策定中である。
持続	事業経営の 健全性の確保	財政基盤の強化（収入）	① 水道料金（体系・水準）の妥当性検証	●料金回収率	116.1%	100%以上	100%以上	114.2%	112.9%	109.4%	料金回収率は安定して100%を超え、類似団体・全国平均を上回っている。業務の効率化や人件費の抑制による繰上り費用減少と共に、安定的に営業収益の確保ができている。	
				●口座振替利用率	76.9%	80%以上	80%以上	77.2%	80.5%	78.9%	2022年度からクレジットによる振替を開始につき、2022年度からは口座振替とクレジット振替の割合を表記。2023年度は新規利用者が納付書払いのままで支払い方法を変更しないケースが多かったことから、定期的な口座振替等への勧奨が必要となっている。	
		財政基盤の強化（支出）	② 資金調達計画の策定	●事業環境に即した資金調達計画の策定	-	進捗管理・見直し	進捗管理・見直し	-	進捗管理・見直し	進捗管理・見直し	投資計画を基本にした資金調達に基づき、進捗管理及び見直しを行った。	
				③ 支出の削減方策の検討	●経費削減率※	-	2.5%	5.0%	-10.9%	-7.7%	-13.4%	2021年度から豊橋市と水道料金等収納業務委託を開始したが、水道スマートメーター導入に伴う実証実験や全戸設置に伴う取り組みにより大幅な人員削減ができず、また、物価上昇に伴う経費増額により、削減ができていない。
	財政基盤の強化（廃止施設等の措置）	④ 遊休資産の整理	●遊休資産の削減数	0箇所	1箇所（累計）	2箇所（累計）	0箇所	0箇所	0箇所	中之郷配水場の一部遊休資産の借地箇所について地主と調整を行い、2024年度解体に向けて予算化を行った。		
			★施設統廃合・配水区域の再編	⑤ 浄配水施設の統廃合・配水区域の再編	●整備計画の策定	-	進捗管理・見直し	進捗管理・見直し	進捗管理・見直し	進捗管理・見直し	進捗管理・見直し	計画策定後に発生した大規模地震等災害の実例を踏まえ慎重に検討していく。
	●管理対象となる浄配水施設数	13箇所			11箇所	10箇所	13箇所	13箇所	12箇所	2023年度に大森浄水場を廃止した。引き続き施設統廃合を進める		
	施設の効率性・健全性の確保	★施設・管路適正化の検討	⑥ 施設・管路能力の見直し（ダウンサイジング）	●更新計画の策定	-	進捗管理・見直し	進捗管理・見直し	進捗管理・見直し	進捗管理・見直し	進捗管理・見直し	進捗管理・見直し	スマートメーターを応用した管網解析により、市内配水管の管網の内、ダウンサイジング可能な箇所と口径を検証していく。
				●配水池有効容量	18,366㎡/日	17,866㎡/日	16,866㎡/日	18,366㎡/日	18,366㎡/日	18,366㎡/日	配水施設統廃合に伴う配水区域の変更に対応できる市内配水管路を構築するため、まず配水管の更新を行っている。	
	施設・管路情報管理の強化	⑦ 施設台帳の電子化	●施設台帳の電子化	-	見直し整理の完了	導入完了	見直し整理中	見直し整理中	見直し整理中	見直し整理中	マッピングシステムの見直しと合わせて検討中	
⑧ マッピングシステムの再構築			●マッピングシステムの見直し	-	見直し整理の完了	導入完了	見直し整理中	見直し整理中	見直し整理中	市全体のマッピングシステムの更新計画を考慮しつつ水道課の仕様にて特化したシステムの導入についても検討中。		
運営基盤の強化	★官民連携の実施	⑨ 水道料金収納業務等包括委託の導入	●包括委託の導入	-	実施完了	次期実施完了	契約	実施	実施・次期実施検討	2025年度からの次期実施に向けて、豊橋市と新たに豊川市も加わり3市により、給排水申請業務を新たに追加するなど包括委託の検討を行った。		
			★新技術の導入	⑩ 自動検針（スマートメーター）・SMS配信サービスの実装実験	●スマートメーター実装実験件数	0戸	1,800戸	2,600戸 導入区域の検討・実施	1,959戸	2,026戸	6,285戸	2023年度に、水道メータースマート化計画として、2027年度までにスマートメーターを全戸設置し、SMS配信サービスも市内全域を対象可能とする計画を策定した。そのことに伴い、2023年度は指標値を大幅に上回る結果となった。
	技術（技術習得）の継承	⑪ 他事業体との人事交流	●他事業体との人事交流実施回数	0回/年	-	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	近隣市町の水道工事担当の技師が施工上の問題点や新技術について話し合う意見交換会に参加した。		
	利用者との相互理解の推進	⑫ 新たな情報提供・サービスの導入	●方策導入の実施件数	0件	1件（累計）	2件（累計）	0件	0件	1件（累計）	国の電子インボイス制度の創設に伴い、利用者のDX化への要望に対応すべく料金システム改修を行い、希望する利用者に電子請求書を発行できるようにした。		
	★広域化・広域連携の検討	⑬ シェアードサービスの導入	●シェアードサービスの導入に向けた検討	-	実施完了	次期実施完了	豊橋市と協定締結	実施	実施・次期実施検討	2025年度からの次期実施に向けて、豊橋市と新たに豊川市も加わり3市によるシェアードサービスに向けた協定を締結し、検討を行った。		
			⑭ 資材等の共同購入	●資材等の共同購入に向けた検討	-	-	実施	-	-	静岡県水道広域連携全体会議による検討	静岡県と県西部地域の各市を対象に、重点的に確保すべき資材の選定と災害時における広域的な確保の方法を協議中である。	

※経費削減率：2018年度実績の営業費用（減価償却費及び資産減耗費を除く）に対する削減率